

日本武尊の東征Ⅱ

景行天皇の時代、尾張は既に大和朝廷の支配下にありました。最初に尾張の娘が皇族に嫁いだのは第五代孝昭天皇の時代です。朝廷は美濃で支配下に置き、第七代孝靈天皇の時代に西は吉備国まで勢力を及ぼしていました。これを裏付けるように、大和の三輪山に近い纏向遺跡を発掘したところ、そこから東海系の土器が多く出土し、吉備、北陸、近江、山陰の土器も多く混じっていたのです。第十代崇神天皇以降、さらに支配地を広げようとしていたのです。景行天皇の時代、日本武尊が登場することで全国支配を実現していくのです。

水上姉子神社元宮 宮簀媛の館跡

FloodMapsにより古代の海岸線を推測した図



在よりも北にまで海が入り込んでおり、上の地図のように現在では陸地ですが、当時は船で渡る航路がありました。その海路は江戸時代の東海道「七里の渡し」とほぼ同じコース

尾張に向かう日本武尊

尾張国造の祖とされるのは熱田神宮にある上知我麻神社の祭神乎止与命です。その祖先は大和国の葛城小治田尾治田に住んでいたとも言われています。乎止与命の子で国造を継ぐ人物が建稲種命です。建稲種命は日本武尊の東征に従った副将軍でもあります。この人物は記紀に登場していませんが『尾張国熱田太神宮縁起』などにはその名を見ることが出来ます。

伊勢で倭姫命と別れた日本武尊は建稲種命ら東征に同行する勇者たちと合流するため尾張に向かいました。当時の国造の館は火上邑(現在の名古屋市緑区大高)にありました。伊勢から北上した日本武尊は桑名から船で伊勢湾を渡ることになりました。当時の伊勢湾は現

すだったと思われれます。そのため、桑名から現在の熱田にある宮の渡し付近まで船で向かい、そのあと再び船で火上山の館に向かったと考えられます。これは東征後も同じで、尾張の平野部を陸路で南下してきた日本武尊は熱田に近い鳴海潟で一旦休息し、そのあと船で火上の宮簀媛の館に向かっています。



草薙神社(尾津神社) 三重県桑名市多度町

日本武尊は桑名を出航する前に尾津前と呼ばれる所で食事をし、その近くの港から出航しました。この時、尾津浜の松の木の根

元に剣を置き忘れて出発してしまいました。東征を終え、伊吹の賊と戦った日本武尊が病となりながらも都を目指していた途中に尾津浜に立ち寄り、そこで置き忘れた剣を見つけました。その時歌を詠みました。

尾張に 直に向へる 一つ松あはれ

一つ松 人にありせば 衣著せましを
太刀佩けましを

剣を置き忘れた尾津浜の伝承地は三重県桑名市に三か所あります。



松后社 愛知県名古屋市長田区

が日本武尊の身の回りの世話をしました。東征への出発に際し、二人は婚約するので

宮簀媛命との出会い

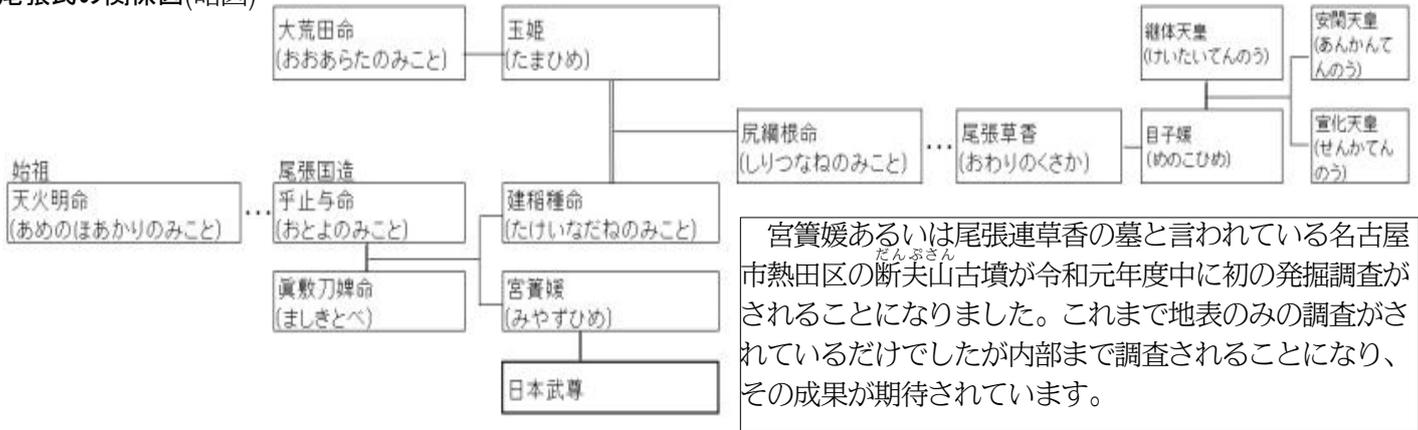
桑名を出航した日本武尊が最初に上陸したのが熱田台地です。尾張国愛智郡に入った日本武尊は建稲種命と会いました。命は「私の故郷は火上の里です。そこでお休み下さい。」と勧めました。

火上に向かおうとした日本武尊が川で衣を洗っていた娘に道を尋ねました。ところが、娘は耳が聞こえないふりをして相手にしませんでした。日本武尊が建稲種命の館に着くとそこに美しい娘がいました。その娘は稲種命の妹の宮簀媛で、日本武尊が道を尋ねた時に出会った娘でした。宮簀媛は恥ずかしくて聞こえないふりをしていたのです。

熱田神宮の南、二人が初めて出会った所に祀られていると言われる松后社は「おつんぼ神」とも呼ばれ、現在は耳の神様となっています。

現在は名古屋市長田区の水上市子神社の境内地にある宮簀媛の館では媛

尾張氏の関係図(略図)



東征軍の出発地

大和からの兵らと建稲種命の呼びかけで集まった尾張の兵らが集い、いよいよ東征へ出発の時を迎えました。

『尾張国太神宮縁起』には、日本武尊が副將軍の建稲種命には陸路で山道を行き、自らは海路で東国を目指すので「坂東関東地方で会おう」と指示したと書かれています。また、神宮縁起には内陸部を進行した建稲種命が次に日本武尊と合流したのは房総半島の玉崎だったと伝えています。これにより、建稲種命は本隊とは別行動をしていたことがわかります。建稲種命が内陸部の情報収集をしながら古東山道を関東に向かったことは、東国平定後の日本武尊の帰路を決めることにつながったのではないかと考えられます。

愛知県名古屋市にある成海神社の祭神は日本武尊、宮簀媛命、建稲種命です。元は現在地から少し南の天神社がある地に鎮座していましたが、根古屋城(鳴海城)の築城のため遷座しました。成海神社には「御舟流し祭」という秋



天神社(名古屋市南区岩戸町)

の祭礼で行われる神事があります。この祭りでは「大日本洲尾張国愛知郡成海神社」「疾病消除」「御三神船」と書かれた桧板三枚を扇川に流します。東



「年魚市瀉勝景」石碑(名古屋市南区)

征後に尾張に戻った日本武尊は鳴海瀉から舟で宮簀媛のいる火上山(現在の火上山)に渡りました。これに因んだ神事だそうです。天神社の境内にはこの時詠んだ日本武尊の歌碑があります。また別伝承として、この祭は日本武尊らが鳴海瀉から東征に出航したことに因んで行われているとも言われているそうです。かつてはこの近くに愛知県名の起源とされる年魚市瀉が広がり、船を出す港があったと思われ

成石神社 愛知県半田市宮本町

祭神は天穗日命、少彦名命、大己命貴命、誉田別尊、素戔尊命、日本武尊です。なぜここに日本武尊が祀られているのかわかりません。知多半島にあり、日本武尊が通過した地あるいは東征軍の出航地の一つかもしれません。

入海神社 愛知県知多郡東浦町

祭神は弟橘媛です。やや高台に神社があります。この辺りは入海員塚と呼ばれる縄文時代の遺跡があることから、当時は海岸線が目前であったと考えられます。この遺跡からは入海式土器と呼ばれる砲弾型の土器が発見されています。

ここから忍山宿禰(弟橘媛の父)が出航したと考えられています。